

〔幽遠隨筆〕下今世に、こと男したる女を、とらへて髪切事あり、さる事もいにしへより有けることにこそ、新續古今に、

あひまれりける女のおとこに髪切られぬとき、てつかはしける、大藏卿胤材

ちはやぶるかみもなしとかいふなるをゆふ計だに残らずや君とあり、るぞが島といふ所には、女のふた心有ものは、とらへて髪を焼つくすとかや、近頃商人船に乗て、とほつあふみの海をわたりける人の、はやちに吹れて、蝦夷島に流れ行けるが、彼島にひと、せ計居て、さる事も見けるが、歸りて後物がたりしけり、

〔松屋筆記〕七男に髪切られし女

實方家集に、小一條院に宮内といふ人、男に髪きられたりとき、て、

よそながらきえみきえすみある雪のふるの社のかみをこそおもへ、と有、こは今世にも例あること也、

〔歷世女裝考〕四婦人貞操の爲に髪を截る

夫うせて妻髪を截るは、古今の通義なり、又貞操義心の爲にする事、今も往々聞ゆ、

〔松屋筆記〕六十六女子髪を切て男に送る事

今俗男女口舌を生じ、或は心を通ずるに、髪を切て男に送る事あり、通鑑綱目四十三百五十八丁唐玄宗天寶五年の條に、楊貴妃忤旨遣歸於外舍之後、妃對使者涕泣曰、金玉珍玩皆陛下所賜、惟髮者父母所與、乃剪髮一縷而獻之、と見ゆ、

〔屠龍工隨筆〕羅漢祖師の頂を高く繪る畫木に、きざめるも、寄所ありてなり、總て物に工夫をこらし、晝夜寝ぬ事の多くなれば、自然と頂ぬけ上りて、高くなるものなり、

〔近世百物語〕上婆體三千丈